

放射線を理解するための情報について

2014年11月17日

一社)FOOD COMMUNICATION COMPASS 森田 満樹

はじめに(ご挨拶) FOOD COMMUNICATION COMPASSは科学的根拠に基づく**食情報**を提供する消費者団体です

* 活動の目的

消費者団体・事業者・行政・研究者と連携しながら科学的根拠に基づく情報発信を行うことで、消費者が冷静に食の問題に対処できる社会を作るために活動をしています。

* 主な活動

ウェブサイト「FOOCOM.NET」で、食情報を無料で広く発信しています。活動を支援して下さる有料会員には、メールマガジンで詳細情報を届けています。また、会員向けセミナーを定期的に開催しています。



<http://www.foocom.net/>

代表・編集長 松永和紀
(科学ライター)
事務局長 森田満樹
(消費生活コンサルタント)

食の安全に関する情報を理解するために

食品の安全に関する膨大な情報があふれていて、その中には不安になってしまうものもある。特に放射能リスクについては何が正しいのか、判断が難しくなっている



国や地方自治体、研究者などから適切な情報が発信されている
↓
ところが、その情報が消費者になかなか届いていないのでは？

リスクに関する科学的かつ客観的な情報を、互いにやり取りすることで、理解を深める「リスクコミュニケーション」が重要になっている

「食の安全」のためのリスクアナリシスとは

問題発生を未然に防止したり、悪影響の起きる可能性を低減するための仕組み。リスクアナリシスの中にリスクコミュニケーションが含まれている。

リスク評価 食品中の有害物質の摂取、どの程度の健康への悪影響がどのくらいの確率で起きるかを科学的に評価

リスク管理 科学的データ・評価に基づいて、リスク低減のための政策・措置を検討し、必要に応じて実施する

リスクコミュニケーション リスク評価と管理において、食品事業者や消費者、関係者間で情報を共有し意見交換し、政策や措置に反映させる

リスク評価（科学的評価）
食品安全委員会

リスク管理（政策決定実行）
厚労省、農水省、消費者庁等



リスクコミュニケーション
（消費者、事業者、関係者間で情報共有）

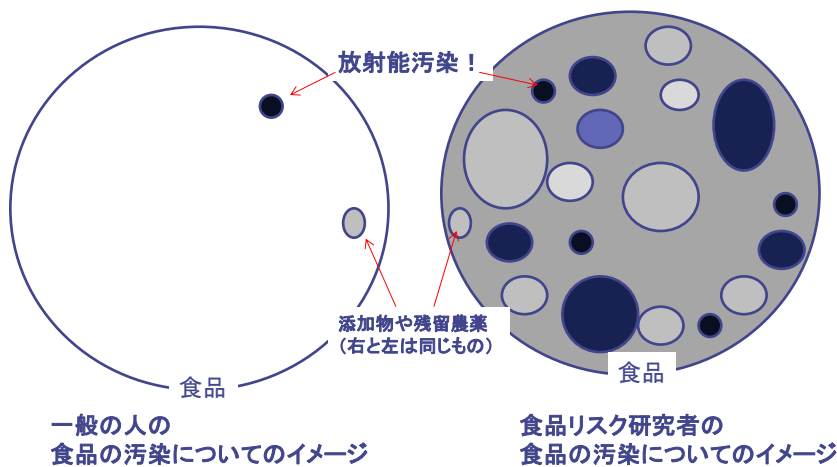
「食の安全」を考える時に大事なことは

なにを
どれだけの量

食べるか？

リスク＝ハザード(有害性)×摂取量

食品、イメージで表現すると.....
→食品はリスクゼロではない



国立医薬品食品衛生研究所安全情報部第三室長
畝山 智香子先生の『「安全な食べもの」ってなんだろう？ 放射線と食品のリスクを考える』(日本評論社)より

「ゼロリスク」(絶対安全)を求める感情

- ◆ 少しでも毒性があるものは少量でも食べたくないと思うのは、消費者としては当然だが・・・
- ◆ 食品には、多様な成分(栄養成分、機能成分、毒性物質、発がん物質等)が含まれ、天然だから安全ということはない。製造過程で微生物やカビが付着したり、加熱工程で発がん物質が発生することもある。「ゼロリスク」はあり得ない中で、放射線リスクが、他のリスクと比較して現実的にどのくらいかを知ることが大事

リスク情報が、なかなか伝わらないのはなぜ？

「放射能リスクを理解するための情報」の問題点

- ◆ 新聞、テレビなどの情報が断片的
 - ・センセーショナルが最優先、わかりやすい話が好まれる
 - ・危ないニュース、悪いニュースが印象に残る
 - ・ハザードの話が中心で、量や確率の話は無視
 - ・限られた情報量で、専門的で正確な情報を伝える難しさ
- ◆ 国、地方自治体からの正確な情報は、消費者からアクセスをしないと入手できない
- ◆ 政府への信頼度が低い
- ◆ 理科教育の不足

リスクを理解するために必要なリテラシー

◆ 科学リテラシー

一般に知られている科学用語の意味がわかり、科学的な思考ができる力



◆ メディアリテラシー

マスメディアの伝え方の特徴を理解し、リスク情報に含まれる真実を見抜く力

◆ 情報リテラシー

情報収集ができる能力、
氾濫する情報の中から必要な情報を
探し出し、信頼性を評価できる能力



放射線リスクに関する科学的根拠に基づく情報を消費者団体として発信してきました（下記タイトルは一例です）

◆ 2011年

- ・食品安全委員会が出した「生涯累積線量100mSv」が抱える問題点
- ・1日2杯の味噌汁が効く」は本当ですか？ 放射能汚染のトンデモ科学に騙されないために

◆ 2012年

- ・放射性物質 新基準値案はどう設定された？
- ・放射線リスクに対処するには、総合的な情報提供と共有、意見交換が必要

◆ 2013年

- ・米の放射性セシウム数値が示す農家の努力、科学者の献身
- ・福島のお米「天のつぶ」とメディアツアー

◆ 2014年

- 「放射性物質は心配ない。なのに…～わかめをめぐる9つのストーリー」
- 養殖わかめは、海の表層でゆらゆら。だから、放射性物質汚染は考えにくい

◆ 2015年

- 福島の実験操業を視察 東京でも県産マガレイを買いました

FOOCOM.NETの情報発信事例

The screenshot shows the FOOCOM.NET website interface. The main content area features an article titled '福島県の漁業を支援 東京でも産物マガレを買いました' (Supporting Fukushima's fishing industry, I bought produce bags in Tokyo). The article text discusses the recovery of Fukushima's fishing industry and mentions a visit to a fishing boat. There are two images: one of a fishing boat at sea and another of people handling fish in a processing facility. The sidebar on the right includes a video player showing a man speaking, a list of '最新の記事' (Latest News) with several headlines, and a 'FOOCOM.NET 会員募集' (FOOCOM.NET Member Recruitment) section.

セミナーをとおして放射線リスクや、リスクコミュニケーションについて一緒に考えてきました

- ◆ 第1回セミナー(2013年4月)
「安全な食べもの」ってなんだろう～食品中の発がん物質について
国立医薬品食品衛生研究所安全情報部第三室長 畝山智香子さん
- ◆ 第3回セミナー(2013年9月)
科学報道の問題点～どのように変えていけるのか？
毎日新聞社水と緑の地球環境本部長 斗ヶ沢秀俊さん

- ◆ 参加者から寄せられた意見から
 - ・ リスクのイメージを俯瞰してとらえる畝山さんの考え方を、もっと学校教育の家庭科の場で伝播していきたい
 - ・ 新聞記事などに掲載される不適切な専門家のコメントについて、そこに市民から意見を出して双方向のやり取りができるような、紙面審査会などの仕組みが必要ではないか
 - ・ 放射線リスクの科学は平凡な事実しかないが、それを誰がどう伝えるが重要だと思う

食品における放射線リスクを たくさんの方が理解するために

- ◆放射線リスクを理解するには、細かいデータを読みとく顕微鏡の目と、リスク全体を理解する俯瞰する鳥の目の両方が必要
 - ◆放射線リスクのみでなく、食品の発がんリスクについて知り、食べものの現実的なリスクが考えられる力を身につける
 - ◆過剰な情報・一面的な情報に惑わされないよう気をつける情報リテラシーを身につける
- 新しい情報、現場における取組みを盛り込みながら
国、研究者、地方自治体、事業者などがリスクコミュニケーションを継続すること、消費者が関心をもち参加することが、風評被害対策につながる